

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

障害者のがん検診施策の事例：探索的ウェブ調査

研究代表者 八巻知香子 国立がん研究センター がん対策研究所 室長
研究協力者 羽山 慎亮 国立がん研究センター がん対策研究所 特任研究員
研究協力者 甲斐 更紗 国立がん研究センター がん対策研究所 特任研究員

一般に障害のある方ががん検診受診率は障害のない方の受診率より低い傾向がある。障害のある人がどのような検診を受けるべきか、また、受けることに利点がある場合にはどのように検診受診を促進することが可能なかを検討するにあたっての参考とするため、障害のある方ががん検診の海外動向をWebで探索的に調査した。主に、障害者差別を禁止している法制がある、英国・スウェーデン・ドイツ・韓国の4か国の医療サービス等を中心に検索したところ、いずれの国でもがん検診内容を分かりやすく説明するパンフレットを作成しており、障害のある人へのがん検診の情報提供の必要性は認識されていた。

がん検診の受診で利益が得られる人が適切にがん検診にアクセスできる環境を整えていくために他国でどのような取り組みが行われているのか、特に重度の障害がある場合に利益、不利益をどのように判断しているのか等について、引き続き調査を進めていく必要がある。

A. 研究目的

障害者のがん検診受診率が低い傾向があることは指摘されている。しかし、障害のある人の中で、一般のがん検診で利益の得られる対象者や、その人たちががん検診を受けられるための方策についてはほとんど検討されてこなかった。そこで、障害のある人も、利益がある場合には適切にがん検診にアクセスできる方策を検討するため、障害者のがん検診の海外動向をWeb検索で探索的に探る。

B. 研究方法

1. 調査期間

2023年9月から2024年3月末日

2. 調査方法

障害者差別を禁止する法律がある国々を中心に、障害者のがん検診についてどのような取り組みがあるのか、Web検索した。

C. 研究結果

1. 英国の状況

がん検診については、LD（Learning Disabilities: 知的障害 *英国は「知的障害」を示す用語として、一般的にLearning Disability またはLearning difficultyを用いる）への対応に関する文献が多い。英国の社会制度上、知的障害の定義に該当する人数が他の障害のある方より多いため、Public Health Englandに、知的障害のある方へのがん検診の取り組みに関する資料が多くみられた。

<https://www.gov.uk/government/publications/ncr-screening-and-people-with-learning-disabilities>

(1) ガイダンス がん検診における合理的配慮
(2016年5月8日発行)

<https://www.gov.uk/government/publications/ncr-screening-and-people-with-learning-disabilities/cancer-screening-making->

[reasonable-adjustments](#)

- ・乳がん検診におけるやさしいガイド

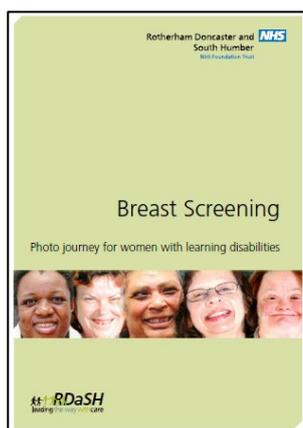
<https://www.gov.uk/government/publications/breast-screening-information-for-women-with-learning-disabilities>

(2023年6月29日最終更新)

「やさしいガイド」は、知的障害のある方を念頭において作成されていた。

これらの中で応用しやすい好事例として、「乳がん検診に関するフォトストーリー」があった。がん検診案内通知が届くところから写真付きで説明されていた。

(閲覧日：令和5年11月15日)



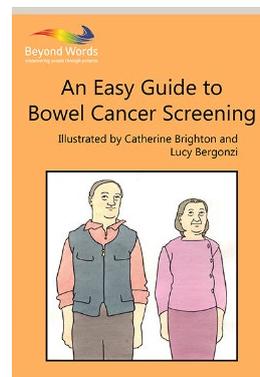
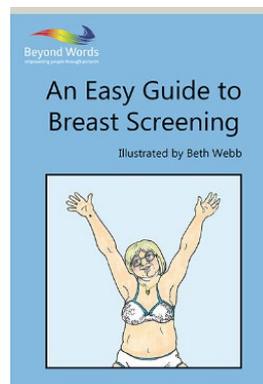
- ・ことばのない絵によるストーリーでのガイド

知的障害のある方々に、絵で何かを伝えることで、自分の気持ちを理解し、新しい経験を積み重ねる試みを実施している、英国のBooks Beyond Wordsという団体 ([\[clubs/\]\(#\)\) が作成している。](https://booksbeyondwords.co.uk/book-</p></div><div data-bbox=)

<https://booksbeyondwords.co.uk/resources-dl>

がんに関しては1)乳がん検診、2)大腸がん検診のガイドブックが上記のサイトの中にあった。

(閲覧日：令和5年11月13日)



どちらもことばがなく、絵のみで構成されていた。

- ・ガイダンス 乳がん検診における不平等を減らす取り組み (2024年2月20日更新)

<https://www.gov.uk/government/publications/breast-screening-identifying-and-reducing-inequalities/breast-screening-reducing-inequalities>

障害のある女性向けの乳がん検診の動画もあった。



<https://www.bing.com/videos/search?q=Women+with+Disabilities+and+Breast+Cancer+Screening&qpv=Women+with+Disabilities+and+Breast+Cancer+Screening&FORM=VDRE>

2. スウェーデンの状況

RCC(Regional Cancer Centre)が中心となって、地域と連携しながらがんの予防や早期発見、治療等の取り組みをしている。

スウェーデンは、知的障害者向けのわかりやすい情報提供に先駆的に取り組んでいる国であり、乳がん検診についても流れをわかりやすく説明したパンフレットが作成されている。



・När jag ska på mammografi (マンモグラフィーに行くとき)

RCC(Regional Cancer Centre) Stockholm Gotland
発行

https://cancercentrum.se/globalassets/cancerdiagnoser/brost/stockholm-gotland/cancerc_mammografi_a5_korr5.pdf



(閲覧日：令和6年3月30日)

3. ドイツの状況

障害者向けの専門の医療機関として、2015年から「障害のある成人のための医療センター」が設立され、国内に70カ所以上あるということである。

ドイツでは、知的障害者等に向けたLeichte Sprache (easy language) での情報提供が散見される。がん検診については、バーデン・ヴュルテンベルク州のがん協会と身体障害者・重複障害者協会がわかりやすい冊子を発行しており、乳がん検診について説明した冊子もある。

・Brust-Krebs? Nein, danke! (Breast cancer? No, thank you!)

https://bagmzeb.de/wp-content/uploads/2022/12/LVKM_Brust-Krebs-Nein-danke_barrierefrei.pdf



(閲覧日：令和6年3月30日)

4. 韓国の状況

韓国では、「障害者の健康権および医療アクセス保障に関する法律」の第7条により、「国家と地方自治体は、障害者の健康増進および疾患予防のための健康検診事業を施行することができる。」「国と地方自治体は健康診断を受ける障害者とその家族の経済的負担能力などを考慮して健康診断に所要される費用の全部または一部を支援することができる。」といった定めがある。

これにともない、政府は障害者の一般健診やがん検診の受診率を高めるため、設備などを満たした医療機関を「障害者検診機関」と指定し、「障害者にやさしい健康検診サービス」を実施している。2021年には国立リハビリテーション院に障害者健康検診センターが設立され、障害者の健康検診事業を運営している。2024年3月現在、全国に16カ所の機関

が指定されている。

障害者検診機関では、次のようなことが心がけられている。

- ・障害者が安全に検査を受けられるよう、案内係が移動とコミュニケーションを手助けする。
- ・視覚・聴覚障害者のための案内システムを備えている。
- ・障害者が安全で円滑に移動できるための設備を備えている。
- ・障害者に適合した検診設備を備えている。
- ・障害者に負担が少ないよう、検査時間および姿勢、検診過程等に注意を払う。
- ・やむを得ない場合、無理に検査を進めない。

また、検診の概要や利用の仕方などを案内した冊子も障害種別に作成されている。



(閲覧日：令和6年3月30日)

冊子は、国立リハビリテーション院中央障害者保健医療センターのウェブサイトからダウンロードできる。左から順に、「肢体・脳障害のある受検者用」「聴覚障害のある受検者用」「視覚障害のある受検者用」「発達障害のある受検者用」となっている。聴覚障害者用には手話版、視覚障害者用には点字版とテキスト版があり、発達障害者用はわかりやすい冊子になっている。

https://www.nrc.go.kr/chmcpd/html/content.do?dlyph=pi&menu_cd=02_05_02_02

発達障害者用には乳がん検診についてもわかりやすく説明されている。検査を受ける年齢と頻度（40歳になってから2年ごと）から検査の流れ、検査中の痛みなどについて、簡潔な文章とイラストで説明されている。



聴覚障害者用の手話版動画では、乳がん検診の流れが韓国手話と字幕で説明されている。

D. 考察

今回は、障害者差別を禁止している法制のある、4つの国を取り上げた。対象とした4か国のウェブサイト上には、いずれの国でも知的障害のある人が理解しやすい検診内容の解説が作成されていたが、その他の障害向けの情報については国によって有無が分かれた。

障害者ががん検診を受診しやすい体制の整備については、今回の探索的なウェブ調査から明らかになった点は限られるが、ドイツでは、障害者検診機関が定められており、そこで配慮すべき事項についてもウェブ上で公開されていた。

しかし、障害の内容や程度によって、がん検診の利益、不利益をどう判断しているのかなどについては、ウェブサイト上の公開情報からは十分に明らかにすることはできなかった。

E. 結論

一般的に、どの国も、障害のある方ががん検診の受診率が、障害のない方と比較するとかなり低い傾向がある。ウェブサイト上の公開情報で明らかに

なることは限られたが、知的障害のある人にもわかりやすい資料の提供は調査対象の4国とも行われており、障害のある人へのがん検診の情報提供の必要性は認識されていた。

がん検診の受診で利益が得られる人が適切にがん検診にアクセスできる環境を整えていくために他国でどのような取り組みが行われているのか、特に重度の障害がある場合に利益、不利益をどのように判断しているのか等について、引き続き調査を進めていく必要がある。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 (発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし